

北海道置戸高2年生が見学旅行で本校訪問!交流実現!!

北海道東部の内陸に位置する常呂郡置戸(おけと)町にある置戸高校福祉科2年の7名が、12月20日(月)に「見学旅行」の一環として本校を訪れ、本校福祉未来創志科2年生21名と交流会を持ちました。互いに「生活支援」の一端を紹介し合い、それぞれの方法の違いを熱心に学び合い、とても充実した時間を共有しました。寒い一日でしたが、置戸高の先生は「置戸を出発した19日朝の気温はマイナス18℃でした。」と笑顔で話してくださいました。



▲お互いの学校を紹介し合いました



八村選手の等身大モニュメントに釘付け



アイスブレイキング



吹き抜けの中央階段



アトリウムの空間を体感

【実技交流】 お互いの実技から学び合いました!!



《生徒の感想①》 2年 佐藤 陽

置戸高校との交流から、利用者の状況に応じて一つひとつ丁寧に支援していく大切さを学びました。特に、利用者に対する声かけがとても大きくハキハキと話していて、とても参考になりました。自分たちの支援にもこれから活かしていきたいと感じました。

《生徒の感想②》 2年 田山 遥貴

支援方法や支援の根拠が全く違い、新しい発見ができた交流となりました。短い時間でしたが楽しく活動でき、排泄介護だけではなく、他の支援についてもお互いに情報交換できたのもっとよい学びに繋がったと思います。今回の学びを大切に、学校生活を送りたいと感じました。

《生徒の感想③》 2年 庄司 柚羽

排泄介護の実技交流から、私たちが利用者のことを考えて実技をしていたつもりでしたが、置戸高校の実技を見せて頂き、まだまだ足りないことがあると感じました。一つひとつの声かけに根拠を持ち、利用者の自尊心を守ることはとても大切な事だと改めて感じました。

《生徒の感想④》 2年 竹田 小雪

同じ介護福祉士を目指す者同士、北海道と宮城県で学習方法は違っても、お互い利用者のために何ができるかを考えていると思いました。実技交流を通して、明成高校では「おむつ」と表現していますが、置戸高校では「下着」と表現していました。少しの違いですが、利用者の立場から考えると言葉の表現についても考えていく必要があると感じました。

《生徒の感想⑤》 2年 八木 彩来

置戸高校の皆さんの前で実技を披露し、とても緊張しました。少し戸惑ったところもありましたが、根拠を伝えながら実施し、理解してもらうことができたと思います。置戸高校の支援の様子を見て、居室の温度設定まで確認するなど細かい所まで配慮しており、とても勉強になりました。

